

淀川区教育行政連絡会「中学校の部」議事要旨

日 時 令和2年7月14日（火）10:00～11:00

場 所 淀川区役所 5階 501会議室

出席者 学校長：東三国 宮原 十三 新北野 美津島（欠席：三国）

区役所：淀川区担当教育次長（区長） 淀川区教育担当部長（副区長）

淀川区教育担当課長 同課長代理 同係長3名 同係員

傍 聴：0人

資料1-1 R1運営に関する計画 区から依頼した取組の評価結果【ヨドネル】

資料1-2 R1運営に関する計画 区から依頼した取組の評価結果【淀川漢字名人育成計画】

資料2-1 R2運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況【ヨドネル】

資料2-2 R2運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況及び実施計画【淀川漢字名人育成計画】

資料3 ブロック化による学校支援事業について

資料4-1 事前にいただいているご意見・ご要望

資料4-2 令和2年度 淀川区役所教育支援担当関係事業一覧

資料5 事前にいただいているご意見・ご要望

資料6 淀川区大志育成プロジェクト事業について（周知）

【次第】

司会：淀川区教育担当課長

◎淀川区担当教育次長（区長）あいさつ

◎議題

- 1 令和元年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の振り返り）【公開】
 - 2 令和2年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の反映状況）【公開】
 - 3 4ブロック化による予算について【公開】
 - 4 次年度事業に向けたブレインストーミング【公開】
 - 5 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策について【公開】
 - 6 分権型教育行政にかかる情報提供【公開】
 - 7 その他【公開】
- ・各議題について意見交換

区長あいさつ

- ・コロナ禍において防災に対する考え方が変わってきている。淀川区としては、教育活動への影響が最小限となるよう、学校施設における地域活動・盆踊り・敬老会の自粛を要請している。また、防災訓練についてもたくさんの人を集めての従来型の訓練は難しいが、自主防災組織へのコロナ禍を想定した避難所開設訓練や学習会は必要だと考えている。
- ・区役所を統括している朝川副市長からも、コロナ禍においては災害時避難所の収容力を最大限アップする取組を進めるよう指示があった。災害時避難所の避難スペースは、今まで1人当たり1.6㎡という基準だったが、ソーシャルディスタンスを考慮し1人当たり4㎡という基準が示された。計算上、淀川区では収容可能人数が2万人以上不足することになるため、新たに民間施設等を開拓することも必要だが、まずは災害時避難所に指定されている学校の収容力をアップすることを最大限にせよとの指示が出された。これまでは授業を再開する時に支障にならないようにと、普通教室は避難スペースとして活用していなかった地域や学校も多いと思うが、今後は普通教室も含め見直しを考えていかなければならない。
- ・一方、避難所の運営期間をできるだけ短縮しようという動きがある。自宅に帰れないから避難所開設が長期化する訳だが、災害住宅を建設するとどうしても期間がかかるので、今後は市営住宅や民間住宅の空き家を活用する方向で検討している。このように授業再開への影響も少なくなるように検討していくので、ご協力をお願いしたい。
- ・各連合振興町会にある小学校、新北野地域については中学校に、防災担当が避難所スペースのたたき台を持って、校長先生や地域役員のもとへ伺い、調整を図ってまいりたい。その他の中学校についても、台風が本格化する9月までに、調整に入るので、ご協力をお願いしたい。
- ・災害時避難所に備蓄が必要な非接触型体温計について、区長会の安全・環境・防災部会から配備を要望していたが認められず、学校に配備済の非接触型体温計を共用せよとの市の方針が出たので、地域の方にもわかりやすい保管場所についての協議にもご配慮をお願いしたい。

議題1 令和元年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の振り返り）

議題2 令和2年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の反映状況）

（区より説明）

- ・各校の運営に関する計画への反映を依頼している「ヨドネル」と「淀川漢字名人育成計画」について、昨年度の取組の評価結果と今年度の取組の反映状況及び漢字検定の受検日を一覧にまとめているので、ご報告させていただく。

議題3 4ブロック化による予算について

議題4 次年度事業に向けたブレインストーミング

（区より説明）

- ・今年度から4ブロック化による学校支援事業が始まっているが、淀川区は5つの区が所属する第1教育ブロックに所属しており、第1教育ブロックは92校、1,610学級、総額1億7,703万円の予算となっている。予算の内訳としては①基本配付8,050万円、②基本配付が減額されたことによる影響緩和分5,126万円、③事業充当分4,527万円、そのうち3分の1がブロック単位事業分、3分の2が学校単

位事業分となっている。

- ・学校が申請した内容について、教育委員会の査定により、変更を要請されたことで校長先生の思いや学校の取り組むべきことが出来ないようでは意味がないので、校長先生方が納得されているかどうかを区が確認するプロセスを入れるよう淀川区が教育委員会に申し入れたこともあり、先日、区から各校へお尋ねした結果、みなさまがご納得されていると理解している。
- ・教育委員会と第1教育ブロックの区長との会議で、事業充当分について、ブロック化によるスケールメリットを生かせるような事業でないといけないのではといった意見や、一方で、各校の実情は違うので学校単位で考えられる部分が多い方がいいのではといった意見もあり、区によっても考え方が異なる部分もあり、調整が難しかった経過がある。
- ・昨日開催された淀川区教育行政連絡会の小学校の部では、ブロック予算の制度自体がわかりにくいといったご意見や、区からの確認の際には教育委員会からの最終結果が示されておらず、タイミングのズレがあったというご意見もあり、次年度以降よりきめ細かく対応していく必要があると感じている。また、それぞれ申請書が必要なことから、事務作業が増えているといったご意見もいただいているが、4ブロック化による事業へのご意見とあわせ、来年度に向けてみなさまのご意見をお聞かせいただきたい。

（意見交換）

- 事務的な煩雑さや、使い道のわかりにくさはあったものの、学びサポーターの配置は、現場の教員にも非常にメリットが大きく、ありがたかった。また、人の関係では、今年度スクールサポートスタッフを配置してもらったことはありがたい。ぜひ第1教育ブロック独自の事業としてスクールサポートスタッフに継続して来てもらいたい。
- ブロック予算についてタイトに作り上げていかなければならなかった。また、コロナ禍で、その時その時にほしいものは変わってくる。
- 消毒薬が確保できない時に、区に寄贈された消毒用アルコールを学校に配分いただけて非常にありがたかった。
- もと弘治小学校（西成区）の場所に開設された適応指導教室には、退職された先生方が配置され、通所により出席認定できる不登校対応の制度が始まったが、淀川区から場所が非常に遠く、不登校の子どもたちが電車を乗り継いで行くのはなかなか難しい。例えば中学校のミーティングルームのように、在校生と全く接触せずに入室でき、そこに授業をもたず不登校支援のためだけの教員が配置され、学習支援をし、出席認定もできるようになれば、子どもにとっても親にとっても少しは明るい希望がもてる。さらに、こういったところに20～30代の教員を配置できれば、教員の成長にもなる。不登校の子どもたちが将来の引きこもりにならないように、可能であれば学校規模だけではなく淀川区規模で通所できる場所を作っていただけるとありがたい。
- 淀川区の中でフリースクールと連携しながら支援体制がとれれば、安心できるし、保護者の出席認定してほしいという思いもかなえられる。
- 区でヨドネルや漢検の取組をやってもらっているが、いろいろな意味で学校現場が困っているところに淀川区独自のプロジェクトを立ち上げていただきたい。
- 4月当初、学力向上を含めて基本配付と思っていたので、ブロック予算についてももう少し早く具体的に

説明していただきたかった。そうすれば、基本配付とのすみわけができ、後から影響緩和分や事業充分に組み替える必要がなかった。今後は事前に周知していただけたらありがたい。

○細かい部分の予算の組み立てについて、できれば前年度末ぐらいから明らかにしていただければ、来年度の学校運営の方針も立てられるし、予算を有効に活用できると思う。

○各教育ブロックで予算の使える形がかなり違うと聞く。例えば、当校ではコロナ禍で実施できなかった職場体験にかわるものとしてキャリア教育に予算を充当したかったが、指標に合っていないという理由で認められなかった。他のブロックでは、もう少し自由度があったとのことだ。

⇒区より

教育委員会と区長との会議の中でも、学力向上の意味は何かという議論がなされた。学力向上のための制度がサポーターや支援の部分に使われ過ぎだという意見もあったが、やはり授業ができる環境を整えることが学力向上につながるのではないかと思う。新型コロナウイルスの影響で会議の開催もままならず、5月下旬頃になんとか話しあった結果なので、各校への周知は非常に遅かったかと思う。いただいたご意見は今後のブロック会議で反映していきたい。

○いろいろな事業をやっていくのはよいが、スクールサポートスタッフや特別支援教育サポーターなど、あまりにも細分化されていて、つぎはぎだらけに感じる。はっきり責任のもてる1教員を増やしてもらう方が、学校現場としては一番ありがたい。例えば、授業なし、担任なしでフルにいろいろなところに関わっていける教員がいた方が、管理する側としても管理しやすいし、副校長が配置されるだけでも随分変わってくと思う。

○4ブロック化してそれぞれの特徴を生かしていくという趣旨は理解できるが、公教育の中でその特色だけを光らせるよりも、学力的に低い学校と高い学校、それぞれの子どもたちに関わる取組は違うはずであり、与えられた予算をどう活用するかを考えた時に初めてその特色が生きると思う。

○急に校長経営戦略支援予算の加算配付をつぶして、どう扱うかということをはなかなかに示さない市の方針自体に、現場を混乱させた反省をしてもらいたい。来年度については、ブロック単位の事業、学校単位の事業がそれぞれどうなるのか、今後きちんと議論されて、できるだけ早い時期に令和3年度の枠組みを提示していただけたら、来年度の方針を校長として作り上げることができると思う。貴重な財源を使わせていただく立場であるが、紐をつけないでいただければ非常にありがたい。もう少しゆとりのある予算の組み方ができるよう、応援していただきたい。

議題5 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策について

(区より説明)

・新型コロナウイルス感染症拡大予防対策について、ご意見・ご質問があればお聞かせいただきたい。

(意見交換)

○コロナ禍で小学校が避難所になる可能性はゼロではないと思うが、学校が避難所になった時を想定した打合せはされているのか。

⇒区より

避難所自体は27カ所あるが、コロナ禍での避難所開設について27カ所のうち18カ所、18連合について各1カ所ずつ、7月中に各学校にお伺いして状況を説明し、情報交換を行う調整に入らせていた

だきたいと考えている。

○コロナ以前の状況の避難所については把握されているのか。地震の際も避難に来られた方がいたが、鍵や避難物資の保管場所以外は何も具体的に学校側が地域と連携できていないように思うので、実際に事が起こってからでは慌ててしまうかなと心配だ。改めて真剣に具体的に考えていかないとけないと感じている。

⇒区より

連携の仕方は各地域によって違うのが現状。○○町会は○○教室を使うところまで想定している地域もあれば、体育館での受付場所や保健室のスペース、備蓄倉庫の場所などの基本事項しか確認できていない地域もある。一昨年の台風 21 号の際は最初、全校で避難所を開設し、避難する方が少なくなってから各校下 1 カ所だけにするなど段階的な開設とした。災害の規模に応じて避難所開設の状況も変わるが、基本的には小学校・中学校・高校すべてが避難所の対象となる。新型コロナウイルスの関係で収容力をアップしていく必要もあるなか、中学校もすべて対象となるので、具体的に考えていただけることは非常にありがたい。ご意見があれば今後もメール等でお聞かせいただきたい。

議題 6 分権型教育行政にかかる情報提供

【淀川区大志育成プロジェクト事業について（周知）】

（区より説明）

- ・昨年度から実施している淀川区大志育成プロジェクト学習会経費一部負担事業について、児童・生徒の自尊心向上のためにトップアスリートなどを招いて学習会を実施したいというお声が昨年度あったことを受け、今年度から予算を増額し、講師謝礼の金額の単価を引き上げている。令和 3 年 3 月 24 日までに実施予定の学習会があれば、活用してほしい。申請期限は、令和 2 年 10 月 30 日としていますので、ご検討をお願いしたい。

議題 7 その他

- ・特になし